

AFICAT ニュースレター(日本第8号)

2023年2月27日発行

第8号では2022年12月から2023年1月上旬までのタンザニア、ガーナ、コートジボワールにおける活動についてご紹介します。タンザニアでは、松山(株)さまの作業機が KATC に到着しました。また、ヤンマーアグリ(株)さまによるコンバインの研修や JICA 筑波センターによる農業機械の在外補完研修を取材しました。ガーナでは毎年恒例の農民の日のイベントを視察しました。コートジボワールでは(株)ケツト科学研究所さまのセミナーを実施し、その他本邦製農機に関する各種研修を取材しました。

タンザニア:松山(株)さまの作業機が KATC に到着



松山(株)は長野県に本社を置く作業機メーカーで、Niplo(ニプロ)というブランドで製品を

製造販売しています。水田の均平はコメの生産性を向上させる上で重要です。アフリカ各国の水田均平は手作業がほとんどです。水田区画が大きくなると均平作業は困難になります。そのため仮畦畔を設けて区画を小さくして作業を容易にしているのが現状です。ニプロの代掻き機(Drive Harrow)は、水田を効率的に代掻き・均平することができるかと定評があり、国内シェアは No.1 です。

今回、Drive Harrow を AFICAT 用に提供いただくことになり、昨年8月初旬に日本から発送され、9月初旬に Dar es Salaam 港に到着し、諸々の手続きを経て10月に農業省傘下のキリマンジャロ農業研修センター(KATC)に到着しました。2023年2月現在、AFICAT の日本人専門家チームが実証やデモに向けた準備を進めている最中です。

タンザニアはアフリカ諸国で唯一コメ自給を達成しており、ウガンダ、ケニア等の周辺諸国に輸出するなど、商品作物としてのコメの生産性向上への希求が高まっています。日本の農作業機メーカーが協力することで、AFICAT に対する現地の期待は一段と高まっています。



ニプロの Drive Harrow で広い水田圃場も効率的に代掻き・均平されることが期待されます

タンザニア:JICA 筑波の研修(PAMA)

JICA 筑波センターはアフリカ諸国からの研修員を対象に、10月24日(月)から課題別研修「アフリカ地域農業機械化促進(Promotion of Agricultural Mechanization for Africa:PAMA)」を実施しました。JICA の農業機械化協力の一環としてアフリカ各国で農業政策を担う政府職員の能力強化を支援する PAMA は、AFICAT の活動とも連携する点があります。

今回、英語圏からは、エチオピア、ガーナ、ルワンダ、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ザンビアの7カ国、ポルトガル語圏からはギニアビサウ(ただし英語圏コースに参加)の1カ国、仏語圏からはベナン、コートジボワール、ギニア、マダガスカル、セネガル、トーゴの6カ国、合計14カ国から17人の政府職員が参加しました。この14カ国はすべて、日本政府が支援するアフリカ稲作振興のための共同体(Coalition for African Rice Development: CARD)の32カ国に含まれています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、研修の前半はオンラインで実施され、その後11月28日(月)から12月16日(金)までは、タンザニアで在外補完研修が実施されました。タンザニアでは、AFICAT が活動拠点としている KATC で、タンザニア国農業省、KATC 校長や本邦企業による講義などを行い、農民組合、灌漑地区などの視察をしました。

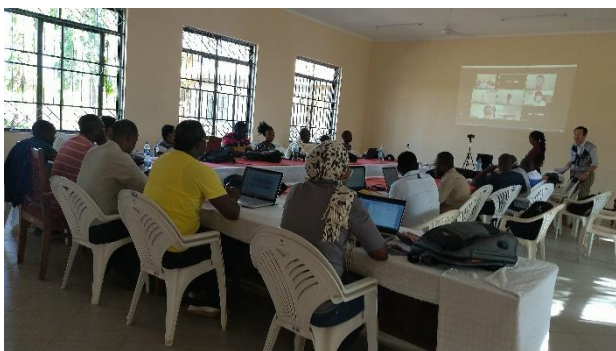
研修では、(株)クボタさま、ヤンマーアグリ(株)さま(以下ヤンマー)、(株)ケツト科学研究所さま(以下ケツト)、本田技研工業(株)さま(以下ホンダ)、(株)サタケさ



ま、(株)フジケンさま、(株)商船三井/KiliMOL さまといった農業機械関連の本邦企業の方々も登壇され、企業概要や製品を紹介する機会もあり、JICA 研修員との間で活発に情報交換が行われました。

AFICAT 運営チームからもアフリカ各国での取り組みを紹介しました。研修員からは、日本の優れた製品や技術をサブサハラ・アフリカに普及させ自国の農業機械化の促進に貢献しようとする AFICAT に強い関心が示され、現在 AFICAT が支援中の 5 カ国以外にも活動を広げる予定があるのか、どうしたら自国に AFICAT を設置できるのかといった声や、自国の製造業者との連携を期待する声がありました。今後 KATC に農業機械製品や機械作業の様子などを動画でお伝えする展示スペースを AFICAT が設置する予定で、より多くの本邦製品や技術を紹介することができますようになります。

AFICAT では、これからも、JICA 筑波センターによる研修事業や農業共創ハブとの連携に向けて、引き続き検討・調整していく予定です。



PAMA では KATC でオンライン／対面による講義やデモが実施されました

タンザニア:ヤンマーさまのコンバイン研修



新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着いてきたことから、本邦企業によるアフリカ諸国での活動も再開されてきています。2022 年 5 月にヤンマーの汎用型コンバイン(YH700)がタンザニアに導入されました。日本からヤンマーの技術者がタンザニアを訪問し、12 月 13 日(火)から 22 日(木)までの 8 日間、現地代理店である ETC Agro Tractors & Implements Ltd. (EATIL)の技術スタッフなどを対象にした研修が実施されました。研修では、エンジンの出力が高いこと、収穫ロスが少ないこと、燃料搭載量が多いため給油と給油の間に作業時間が長く確保できることなど、製品の優れている点が説明されました。

このように、本邦企業の製品や技術によって、アフリカ諸国における農業生産性の向上に貢献すること、まさにそれこそが AFICAT が目指す姿です。研修実施のお忙しいところ、取材を受け入れてくださったヤンマー、EATIL の関係者の皆さまに感謝致します。

Kubota Press でアフリカの取り組みが紹介



クボタのウェブメディアである「Kubota Press (クボタプレス)」

では、日本そして海外におけるクボタの取り組みが紹介されています。世界銀行のデータが示すとおり、アフリカの人口は 2020 年の 13.6 億人から、2100 年には 39.2 億人に増加することが予測されており、クボタがどのようにアフリカの食料問題などに貢献しているか、しようとしているかが紹介されています。タンザニア KATC 校長や CARD 事務局ジェネラル・コーディネーターのインタビューも掲載されており、各々の取り組みをより知ることができる記事になっています。

- 「アフリカ大陸を潤す水田と日本の稲作技術」(クボタウェブサイト)

https://www.kubota.co.jp/kubotapress/life/african_rice.html

ガーナ:農民の日イベントを視察

ガーナには毎年 12 月の第 1 金曜日にガーナ全国農民の日(Ghana National Farmers' Day)という祝日があります。これはガーナの社会経済成長における農業と漁業の重要性に敬意を払うための日で、各地域にてイベントが開催されています。同祝日に合わせて、全国農業フェアが開催され、農業、漁業、女性、若者な



どの部門ごとに国内のベストファーマーが表彰されます。

2022 年は Eastern 州 Koforidua で 11 月 29 日から 12 月 2 日の 4 日間に渡り、全国農業フェアが開催されました。今年のテーマである「付加価値を通じた農業開発の加速」の下、各国の農業資材や農機メーカー代理店、現地農機メーカー、JICA 技術協力プロジェクトの GRIP と G-SHEP、他国際協力機関などがブースを出展し、製品や活動紹介を行いました。会場には大型のトラクターやコンバイン、耕うん機、農薬散布機、穀物水分計などの機械が展示されていました。会場には Akufo-Addo 大統領をはじめ農業省の大臣なども出席し、以下の写真のように会場は多くの人で賑わいました。最終日には、油やしやカカオ、キャッサバなどの大規模農園の経営者がベストファーマーとして表彰され、最優秀者には 100 万ガーナセディ(およそ 1,000 万円)が贈呈されました。この式典の様子は各種ニュースでも取り上げられました。



多くの人でにぎわう全国農業フェアの様子

大統領は演説の中で、国の食料生産を担う農業・漁業関係者に感謝の意を示すとともに、農業の発展にさらに注力する旨を表明。農業機械については、「農業の近代化プロセスを加速するため、零細農家向けにトラクター、耕うん機、プランター、脱穀機、コンバインハーベスターなど、総額 6,700 万米ドル相当の農業機械を輸入してきた」と政府の最近の取組みを述べるとともに、今後計画されているトラクター工場の建設にも意欲を見せていました。¹

ガーナ全国農民の日は国民の関心も高く、多くの農業関係者が遠方からも参加します。AFICAT の活動においても来年は本イベントにブースを設置し、本邦企業の製品を紹介することを検討しています。

¹<https://www.ghanaweb.com/GhanaHomePage/business/FULL-TEXT-Akufo-Addo-s-speech-at-38th->



【イベント内のブースの様子】

トラクターなど農業機械を扱っているブースは Farms and Trading Ltd.^{※1}、Bon Agro Company Limited、West Africa Agro-Tech Co. Gh. Ltd.^{※2} など AFICAT チームが訪問した限りでは 9 社ほどあり、参加者からの関心も高く、盛況でした。

※1:Wishope(中国)、VST Shakti(インド)の代理店

※2:Sonalika(インド)の代理店



農業機械について話を聞く一般参加者 (Micromec / Crop Doctor Ghana Limited(クマン))



Mechanical Lloyd Pmc (Massey Ferguson の代理店)が展示していたトラクター(MF5709)

MF440(82 馬力):42,000 USD、MF5709(92 馬力):50,000 USD、MF5710(102 馬力):52,000 USD²

最終日は特に参加者が多く、総じてどのブースも多くの人が集まっており、例えば Farms and Trading Ltd./Wishope(中国)、VST Shakti(インド)の代理店では CEO がブースに立ち積極的に製品の説明をしていました。

[Farmers-Day-celebration-1673765](https://www.ghanaweb.com/GhanaHomePage/celebration/Farmers-Day-celebration-1673765)

²ブース担当者からヒアリングした価格。



Wishope(中国)のコンバイン:120馬力、32,000USD³



PRORIL2 の活動拠点であるヤムスクロ近郊の圃場での AW70GV の操作演習

アフリカ現地での販促に当たっては信頼できる代理店の発掘・育成は重要です。AFICAT では本邦企業の皆さまが進出を希望する対象国での代理店探しのお手伝いもしています。お気軽にお問い合わせください。

コートジボワール:本邦企業による 現地代理店への製品研修を取材しました

タンザニアと同様にコートジボワールにも本邦農機メーカーが戻ってきており、11月下旬から12月初旬にかけてクボタとヤンマーがコートジボワールで実施した現地代理店向け研修を取材しました。

クボタは現地代理店の Lassire Industrie に対して、コートジボワールに導入しているコンバイン DC70 PLUS の操作やメンテナンスなどに関する研修を実施しました。AFICAT では複数の日程のうち、座学講義やワークショップでの操作演習を見学しました。



Lassire Industrie のワークショップでの DC70 PLUS の操作演習

また、ヤンマーは現地代理店の ATC Comafrique に対して、今後現地で販売を進める予定のコンバイン AW70GV の操作・メンテナンスなどに関する研修を実施しました。AFICAT では複数の日程のうち、圃場での操作演習や座学講義を見学しました。

コートジボワール:PRORIL2 による ヤンマー製の脱穀機研修を取材



脱穀機(ヤンマーDB1000)の構造を学ぶため、参加者が一度分解し、再度組み立てる

国産米振興プロジェクトフェーズ 2(PRORIL2)は、精米業者や農業機械サービスプロバイダー(賃耕・賃刈り業者)の能力強化や、機械化を促進するための体制整備を進めています。コメの生産性や品質の向上には機械の導入に加え、オペレーターの質を向上させることが重要です。12月13日から15日にかけて座学と圃場実習を組み合わせた、ヤンマーの脱穀機に関する研修が実施されましたので、その様子をお伝えします。

本研修には農業機械サービスプロバイダーからオペレーターが8名(男性7名、女性1名)参加しました。いずれの参加者も若く、今後農業機械化を進めるに当

³ブース担当者からヒアリングした価格



たり活躍が期待されます。講師の質問に対し積極的に答えている様子からは、多くのことを学びたいという意気込みが伝わってきました。

【参加者の声、研修への意気込み】

「まだ脱穀機を扱ったことがないので新しいことを学びたい」

「すでに脱穀機を導入しているがベルト部分に不具合がありその解決方法を学びたい」

「メンテナンス方法を学びたい」

「この研修で学んだことを職場の同僚に教えたい」

PRORIL2 の大石専門家によると、脱穀機の性能の差は、こぎ歯の形状・取り付け位置やエンジンの回転とドラム回転の速度などに依存します。したがって、写真のように、内部の構造を理解することで、脱穀機の操作やメンテナンス方法が身に付くだけでなく、コメの品質をあげるためにどのような機械が必要なのかということも理解することができます。

現地の研修講師は日本製農機が他国製農機と比較して性能が高いことを評価していました。引き続き AFICAT では PRORIL2 の協力を得て、アフリカ向けのニュースレターの発行などを通じて日本製農機の広報支援をしていく予定です。

コートジボワール：ケットさまのセミナー実施



以前に紹介したタンザニア、ナイジェリアでのセミナーに続き、コートジボワールにおいても、ケット製品を用いたセミナーを実施しました。国家農業農村開発省 (Ministère d'État, Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural : MEMINADAR) やコメ開発機構 (Agence pour le Développement de la Filière Riz : ADERIZ) を含む AFICAT 運営チームにより、ケットの 6 種類の測定器を紹介しました。そのうち汎用型の水分計はコメ以外の穀物にも対応していることから、ケットおよび現地代理店である CI MOTORS の意向を踏まえ、カカオやカシューナッツの関係者も招待しました。当日は MEMINADAR、ADERIZ の職員に加え、精米業者、カカオ生産・加工組合、コットン・カシューナッツ協議会などから計 16 名が参加しました。



左：各種機材について多くの質問がありそれに答える CI MOTORS 社長の Camara 氏(写真中央)。右：水分計測を行うカカオ生産組合職員(写真左)

セミナーでは、まずケット社員による水分管理の重要性等についての講義が行われ、その後、CI MOTORS の社員が測定器の使い方を説明しました。水分計、白度計、携帯型粉摺り機等への関心はとても高く、実際に製品に触れる前から多くの質問が参加者から寄せられました。セミナーの最後には ADERIZ の Aboubakary 評価部長から、コメなどの作物の水分管理は品質管理の上で非常に重要であるから、日本製品のような信頼できる機器は必要不可欠であるとの言葉をいただきました。また、CI MOTORS 社長からは今回よりも参加規模を拡大させた製品紹介セミナーを実施したいとの考えが示されました。

AFICAT ではこのように日本とアフリカ現地をつないだ形での本邦企業さまによるセミナーのアレンジや実施支援も承っております。ご関心をお持ちの場合は、ぜひ本ニュースレター末尾の連絡先までお問い合わせください。

編集・問い合わせ

(株)かいはつマネジメント・コンサルティング

池ヶ谷・小早川・弓削田

Tel: 03-5791-5083 Mail: aficat.team@kmcinc.co.jp

AFICAT HP:

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/aficat/index.html>

※ニュースレターの新規登録・登録解除をご希望の方は上記の宛先までお名前、所属先、メールアドレスをご連絡ください。

※AFICAT のご活用に関するお問い合わせも、上記の宛先までご連絡下さい。